



Philipp Franz von Siebold *Fauna Japonica* 1834-1850

Reprint, originally published in Lugduni Batavorum [Leiden], 1833-1850
シーボルト著 『日本動物誌』

フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト (Philipp Franz von Siebold, 1796-1866) は長崎出島のオランダ商館医として1823年(文政6年)に来日した。彼の日本での暮らしは出島の内にとどまらず、1824(文政7年)に長崎鳴滝の地に私塾兼診療所を開設、1826(文政9年)には商館長の江戸参府に随行し、滞在任期のおよそ6年間を過ごした。

医師、蘭学者をはじめとする日本人との交流のなかで、シーボルトは西洋の医学、自然科学等の新知識を授ける一方、日本の国土、社会、文化、動植物など広範な分野にわたる調査、資料収集に力を注いだ。海外への持ち出しが国禁だった日本地図などは持ち帰ることができなかったが(シーボルト事件)、彼は膨大な数の収集品を得てオランダへ帰国した。

帰国後のシーボルトの著作の一つが『日本動物誌』である。日本で収集した動物標本や、絵師・川原慶賀らの下絵をもとに、ライデン博物館の研究者の協力を経て、1833年-1850年にわたり、5部篇:鳥類、魚類、甲殻類、哺乳類、爬虫類(両生類を含む)が順次分冊刊行された。本書は日本の動物について欧文(ラテン語、フランス語)で記述した初の資料。精緻な描写の図とともに日本の動物を広く西欧に紹介した。

展示資料は、日本における復刻版(植物文献刊行会, 1934(昭和9)年-1937(昭和12)年)より、鳥類と甲殻類の2巻。日本人研究者による解説つき。